

# 経営の 「決める場所」 チェックリスト

人を増やす前に。広告を足す前に。  
まず「何を先にやるか」が決まる会社かどうかを、  
12の質問で確かめます。

## 使い方

1. 12の質問を読み、当てはまるものにチェックを入れます
2. チェックが付かなかった数を数えます
3. 最後のページで、その数に合った見方を確認します

**A** 優先順位は決まっているか☐**01** 今期の優先順位を、紙1枚で説明できる

説明できない優先順位は、現場ごとに違う順番で動いています。

☐**02** 最近「やめた施策」を言える

足すことは決めても、やめることを決めない会社は手が回らなくなります。

☐**03** 効かなかった施策の理由を説明できる

理由が分からないまま次の施策を足すと、同じ失敗が形を変えて繰り返されます。

**B** 決めたことが回っているか☐**04** 会議で決めたことに、担当と期限がついて残っている

「決めた」と「動く」の間には、誰が・いつまでに、という一行が必要です。

☐**05** 決めたことが、数週間後に社長のところへ戻ってこない

戻ってくるのは担当者の問題ではなく、判断の渡し方の問題であることが多いです。

☐**06** 部署をまたいで、同じ説明を何度もしていない

同じ説明の繰り返しは、情報が一か所に集まっていないサインです。

**C** 判断の基準が社内にあるか☐**07** 社長がいなくても判断できる基準が、現場にある

基準がないと、判断はすべて社長に集まり、社長が会社の速度の上限になります。

☐**08** 店舗や部署ごとに、判断がバラバラになっていない

施策が十分あっても、順番と基準がそろっていないと数字は動きません。

☐**09** 「何から手をつけるか」を一緒に決める相手がいる

数字は税理士、お金は銀行。順番を一緒に決める役割は、意外と空席です。

**D** 「足す」前に整えているか☐**10** 新しい施策を足す前に、今ある施策の順番を見直している

何も足さず、順番を変えただけで数字が動くことは珍しくありません。

☐**11** ツールを入れる前に、決裁ルートと会議体を整理している

決める場所が詰まったままツールを入れても、待ち時間は減りません。

☐**12** 「人が足りない」に対して、採用以外の打ち手も検討した

土台が整わないまま人を増やすと、同じ問題が人数分だけ大きくなります。

## 0～2

個

### 判断の仕組みが回っています

優先順位と判断基準が社内に入り、決めたことが動く状態です。次の打ち手は「何を足すか」で考えて問題ありません。付かなかった項目だけ、担当を決めて手当てしてください。

## 3～5

個

### 一部で「決める場所」が抜けています

多くは回っていますが、特定の領域で判断が社長に戻ってきているはずです。付かなかった項目がA～Dのどこに偏っているかを見ると、最初に整える場所が分かります。

## 6個以上

### 足りないのは、人やお金ではないかもしれません

広告、採用、ツール、研修。どれを足しても効きにくい状態です。まず「何を先にやるか」を決める場所をつくるのが、いちばん効果の大きい一手になります。

社長が口にする課題と、本当の課題は

ずれていることが少なくありません。

足りなかったのは「何を先にやるか決める場所」だった。

これが、支援してきた会社に通じていたことです。

付かなかった項目を、一緒に整理しませんか。

結果をお送りいただければ、どこから手をつけるかを一緒に考えます。

課題がまだ言葉になっていなくても構いません。

**WEB** [xencore.jp](https://xencore.jp)    **Instagram** [@xencore.jp](https://www.instagram.com/xencore.jp)